

「24年度産福島県産新酒発表会」開く

吹っ飛ばせ風評被害！内外メディアに福島地酒の「安心・安全」アピール

福島県酒造組合（新城猪之吉会長）は2月12日の午後6時から、東京中央区のコートヤード・マリOTT銀座東武ホテルで「平成24年度産福島県産新酒発表会」を開催（後援：福島県）。原発事故による風評被害の完全払拭へ向けて、福島地酒の安全・安心を内外のメディアにアピールしました。



福島県産日本酒「安全・安心」報告

「日本酒の安全・安心」をご報告します。

私たちは、安全で安心してお飲みいただける日本酒を提供しております。

福島県酒造組合の「日本酒の安全・安心」対策として、福島県が実施した米の全袋検査をクリアした原料米を、改めてJA倉庫単位で抽出検査しています。検出下限値10Bq/kg以下の不検出米だけを使用するとともに、各蔵元では、醸造用水、原酒、製品、酒粕についても、放射能を測定し、検出限界値10Bq/kg以下のものを製品として出荷することとしております。

全国の蔵元でも、引き続き原料の受け入れをはじめとして製造過程全般にわたって厳格な管理で放射能汚染を防ぐ努力をしております。これまでの放射性物質の調査結果はすべて「不検出」でした。従って、福島県の日本酒は、安全であり安心してお飲みいただけます。

今後も、厳しい品質管理のもと、おいしい日本酒をお届けします。

今日も安全・安心。

今日もおいしい。

みんなの日本酒。

好きなんです 福島の酒。

平成25年 2月12日
福島県酒造組合

■ 記者会見と試飲会で、報道関係150名が福島地酒の安全を確認 ■



東日本大震災から2年余りを過ぎて、福島県では今、震災後2回目の仕込みが進んでいます。しかし、原発事故の後遺症は依然大きく、警戒区域の3蔵がまだ製造を再開できずにいるほか、風評被害による販売の低迷も深刻さを増しているのが現状です。

福島県の酒は、農業団体の放射能検査で検出限界値(10Bq/kg)以下となった原料米のみを使用しているだけでなく、仕込水、原酒、酒粕についても蔵元自ら同様の検査を行うなど、幾重ものチェックを経て、安心安全が保証された製品ばかりです。

「新酒発表会」は、安全確保へ向けた県酒造業界の取り組みを国内外のマスコミにアピールして、福島地酒への理解と支援を呼びかけようと開かれたもので、会には内外のマスコミ関係者ら約150名が参加。記者会見で安全対策の現状報告を聞いた後、県内27蔵が精魂込めて醸した24年度産新酒を、来賓の国会議員らとともに試飲して、その安全性と品質の高さを確認しました。

放射性核種名 Nuclide	測定結果 Results of Measurement 単位 Unit: Bq/kg
I-131	
Cs-134	検出せず(<7.3)
Cs-137	検出せず(<6.7)

放射性セシウムの検出結果報告書(部分)



新城会長

根づよい風評被害の中、高品質の酒づくりに努力(新城会長の挨拶から)

「大震災以来、原発事故の放射能問題で福島県の蔵元は非常に厳しい状態に置かれている。我々は機会あるごとに米、水、酒の検査データを発表して安全性をアピールしてきたが、根づよい風評被害のせいで各蔵の販売数量は思うように伸びていない上、海外には依然輸入を禁止している国も残っている。福島酒は、昨年の全国新酒鑑評会で金賞受賞数全国第2位、受賞率では第1位となっており、我々は今年度も高品質の酒づくりをめざして、気持ちも新たに努力を続けている。安全・安心な福島酒を、この会でぜひご堪能いただきたい」



岩沢米穀部長

米の安全確保へ、1200万袋の放射能検査(JA福島の報告)

JA 全農福島岩沢清隆米穀部長は、ゼオライトやカリウム肥料による土壌の除染作業や、1200万袋(30kg詰め)の全袋検査、流通段階での認定シール貼付など、平成24年度産「ふくしまの米」の安全・安心対策について詳細を説明。「日本酒用に販売する酒米も、もちろん10Bq以下のものだけ。福島県の生産者は一致団結して、安全のために出来ることは全てやっている。何卒ご理解願いたい」と述べました。



米の安全認定シール

■ 風評被害は今が正念場。「最も恐ろしいのは無意識の忌避」(新城会長) ■



- ▲ 検査報告書を添えて新酒を発表
- ▲ 試飲会の冒頭、福島地酒で乾杯。発声は岩城光英参議院議員。



渡辺委員長

2年間で2万点。最終商品に至るまで徹底検査

放射能測定結果について報告したのは、福島県酒造組合の渡辺康広酒米対策委員長。「福島県では、仕入れる酒米、仕込水、醪だけでなく、各蔵元ごとに、絞られた原酒、さらには瓶詰め商品までも放射能測定を行って、安全を確認している。事故後2年間の検査点数は酒粕も含めて全蔵元で約2万検体に達し、そのすべてが10 Bq/kgの限界値以下で放射能は不検出だった。これからも福島の酒は、各蔵元と県酒造組合が最終商品までしっかり検査体制を整えて、消費者の皆様にお届けする」



渡部副会長

「ふくしまの米」の安全・安心を宣言。記者との質疑応答も

記者会見の最後には、渡部謙一副会長が福島県産日本酒の「安全・安心」を力強く宣言(1頁に宣言文)。「今日も安全・安心。今日もおいしい。みんなの日本酒。好きなんです 福島の酒」と高らかに読み上げて、復興への決意を示しました。

また、会見後の質疑応答で「風評被害の具体的状況は？」との質問に答えた新城会長は、「特に関西以西での販売が落ちている。東京のデパートなども、最も売れている店でさえ30%減となっている。我々が最も怖れるのは消費者の『無意識の忌避意識』だ」と述べました。



根本復興相

「復興対策を加速」(根本復興相)、「全世界に理解を求める」(森消費者担当相)

この夜は、多忙な日程を縫って根本匠復興相と森雅子消費者担当相の2閣僚が会場に駆けつけたほか、岩城光英、荒井広幸、山谷えり子の各参議院議員も来賓として出席。

代表して挨拶に立った根本復興相は、「震災復興は経済対策と並ぶ安倍内閣の大きな政策課題であり、復興庁の司令塔機能の強化、復興財源フレームの拡大など対策は加速している。日本一安心でおいしい福島の酒をアピールし、風評被害を克服していく」と訴えました。

一方、森消費者担当相も、「風評被害は実は今がいちばんきつい。食品と放射能に関するリスク



森消費者担当相



コミュニケーションを強化して風評被害の防止することが私の役目であり、きっちり検査をした福島の酒は安全だという当たり前のことを、全国、全世界の消費者にご理解いただくよう、いつでもどこでも福島のお酒を背負って出かけていくつもりだ」と発言。

出席した記者からも「福島県への風評被害の深刻さは取材の中で実感している。消費者の意識改善にできる限り協力したい」と語っていました。